### 【Ⅱ 人形峠環境技術センター周辺】

### 1 目的区分

鳥取県における人形峠環境技術センター周辺の環境放射線測定は、補足参考資料(平 常時)に示す平常時モニタリングの目的のうち、次に掲げる目的において実施する。

なお、補足参考資料(平常時)の最低限実施が必要な項目には該当しないが、環境中の経時変化を把握する上で参考となる項目又は測定技術の保持が必要と考えられる項目については、「(参考)」として測定を継続する。

③ 原子力施設からの予期しない放射性物質又は放射線の放出の早期検出 及び周辺環境への影響評価

(参考)環境中の経時変化の把握又は測定技術の保持

### 2 測定概要

### (1) 概要

三朝町木地山に設置している固定型モニタリングポストにより、空間放射線量率、 浮遊じん全  $\alpha$  放射能濃度及びフッ素濃度の連続測定を行った。また栗祖ほか 6 か所 において、蛍光ガラス線量計による積算線量の測定を行った。さらに、環境試料中の 放射性核種濃度の変動を把握するために、陸水、土壌、農産物等の核種分析を行っ た。

### (2) 実施機関

鳥取県原子力環境センター

中部総合事務所環境建築局(※人形峠環境技術センター周辺の試料採取等) 公益財団法人日本分析センター(分析委託)

### (3) 実施内容

平常時モニタリングは、令和6年度環境放射線等測定計画に基づき実施した。当該 計画の主な内容は、以下のとおりである。

### ア 測定計画

表 $\Pi-2-1$ のとおり。

### イ 測定地点

図II-2-1、図II-2-2のとおり。

### ウ 測定方法及び測定機器

表 $\Pi-2-2$ のとおり。

### (4) 測定結果の評価方法

環境放射線等測定結果の評価は、測定項目及び地点ごとに、詳細調査を開始するための閾値として過去の測定結果より「平常の変動幅」を設定し、四半期ごとに取りまとめた測定結果が「平常の変動幅」を超過した場合には、原子力施設の影響、気象や自然放射性核種等の影響などについて要因の調査を行う。

# 表エー2-1 令和6年度環境放射線等測定計画(人形峠環境技術センター周辺)

### 空間放射線

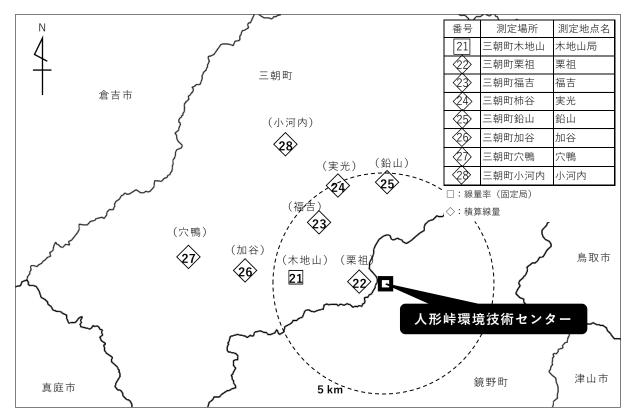
工门从为小体							
項目区分	目的 区分	測定地点	測定地点	測定期間	測定件数	測定機器	測定方法
空間放射線量率	(条条)	三朝町木地山(木地山局)	1	連続測定	_	NaI (TI) シンチレーション検出器 固定型モニタリングポスト	放射能測定法シリーズ「連続モニタに よる環境ッ線測定法」
積算線量	(参考)	三朝町栗祖(栗祖) 三朝町加谷(加谷公民館) 三朝町穴鴨(穴鴨公民館) 三朝町小河内(小河内公民館付近) 正朝町福吉(福吉公民館) 三朝町祐谷(実光公民館)	7	4~6 月 7~9 月 10~12 月 1~3 月	28	蛍光ガラス線量計	放射能測定法シリーズ「蛍光ガラス線量計を用いた環境γ線測定法」

## 2 大気浮遊じん全α放射能、大気中フッ素

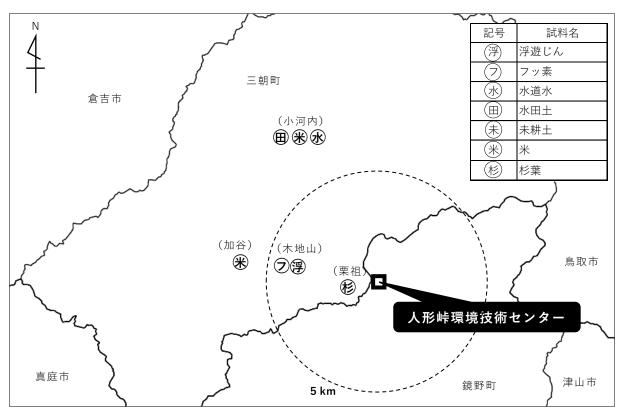
	項目区分	目的 区分	測定地点	測定地点	測定期間	測定件数	測定機器	測定方法
+	浮遊じんお野野					-	ZuS(Ag)シンチレーション検出器 田字刑エータⅡングポマト	放射線測定法シリーズ「全β放射能測定法」 TIS74316「物財性ダストチニタ」
人 気	が が 形 フッ素	(m)	三朝町木地山(木地山局)		連続測定	I	<u>国に至てークランノホスト</u> 双イオン電極測定法電位差計 固定型モニタリングポスト	JISK0105 「排ガス中のふっ素化合物分析方法」

### 3 環境試料中の放射性核種分析

無	ぼんろは	- 「 、			放射能測定法シリーズ「ウラン分析法」		- 太华之》、加亚。 不一二、大师 展 苯 古字	及約 形倒た依シットス「フンンガが依」	- 「、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、		
第一人	(月)人上1)及有户	また。 日本 は は は は は は は は は は は は は は は は は は は	1년 貝里刀が  宏直	↑ EB 177 女177 来、カン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	(ソリコノ半準存使日格)※米売なた	※安正力や	(シリコン半導体検出器)	※委託分析	(シリコン半導体検出器)	※委託分析	
測定項目/件数	U-238		2		2		1	1	6	1	8
測定項	U-235				2		1	1	Ġ	7	9
頻度	採取月	R7	7,11月	R8	7,11月	R7	11月	11月	7 11 H	, 11 A	14年
採取	頻度	2年年	年2回	1	3年年作り回	国 7 十	年1回	年1回	凹6 ⇒	<u>[</u> ]	
五字田玄	1木4人4些氘	三朝町木地山	三朝町小河内	三朝町加谷	三朝町小河内	三朝町栗祖	三朝町加谷	人际小时期三	<u> </u> 당표-배명:	一野町米畑	
目的	区分	(辛辛)	(少心)	4	(少 (少	(参考)	(#4)	(少 (少	(辛辛)	(少少)	
47/14	티기쓰	全日輩	K I	II.	长	表層	小本	<b>大</b>			
137 41	アイゲー	平	小国小	E	H H K	未耕土	2	K	大	₹ *	
項目	区分	全型	<b>长</b>		计		# 7 #	辰压物	特格	10年	



図Ⅱ-2-1 空間放射線量率測定地点



図Ⅱ-2-2 環境試料採取地点

### 表Ⅱ-2-2 測定法及び測定機器

	調査	至項目	分析方法	測定機器
空間放	空間放射線量率	NaI 放射線量率 測定装置	連続測定 放射能測定法シリーズ 「連続モニタによる環境 γ線測定法」	NaI (T1) シンチレーション検出器 日立製作所製 MSR-R54-21034R1 (固定型モニタリングポスト)
別射線	積算線量	積算線量計	3ヶ月間の積算測定 放射能測定法シリーズ 「蛍光ガラス線量計を用 いた環境γ線測定法」	蛍光ガラス線量計(RPLD) 千代田テクノル製 ガラス線量計素子
大気	浮遊じん 放射能	放射性ダスト モニタ	連続測定 放射線測定法シリーズ 「全β放射能測定法」、 JISZ4316「放射性ダスト モニタ」 (250 L/分で3時間集じ んし、3時間経過後、3時 間測定)	ZnS(Ag)シンチレーション検出器 日立製作所製 MDR-RC52-21725 (固定型モニタリングポスト)
	フッ素	大気中フッ素化 合物自動計測装 置	連続測定  JISK0105「排ガス中のふっ素化合物分析方法」 (イオン電極法・20 L/分で3時間捕集)	双イオン電極測定法電位差計 京都電子工業製 HF-48 (固定型モニタリングポスト)
環境	陸水	水道水	ICP 質量分析法 放射能測定法シリーズ 「ウラン分析法」	ICP 質量分析装置 パーキンエルマージャパン製 NexION 1000
試	土壌	水田土、未耕土	放射化学分析	
料	農産物植物	米杉葉	放射能測定法シリーズ 「ウラン分析法」	α線スペクトロメトリー (委託分析により実施)

### 3 令和6年度測定結果

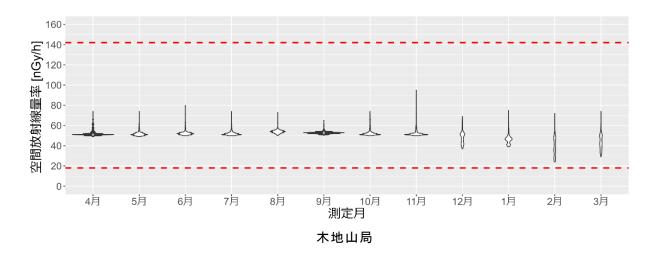
### (1) 測定結果概要

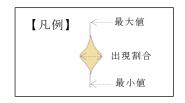
令和6年度の人形峠環境技術センター周辺の環境放射線調査結果については、概ね 過年度の測定結果と同レベルであり、原子力施設からの影響は認められなかった。

### ア 空間放射線

### (ア) 空間放射線量率連続測定(固定型モニタリングポスト)

木地山局の空間放射線量率の測定結果は、平常の変動幅の範囲内であった。

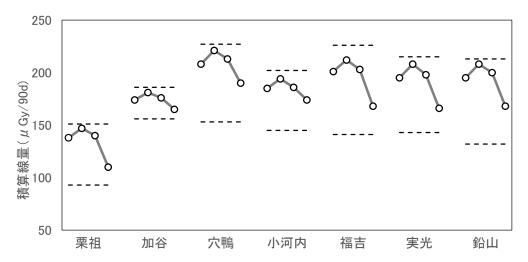




図Ⅱ-3-1 空間放射線量率連続測定結果(固定型モニタリングポスト)

### (イ) 積算線量測定

積算線量の測定結果は、7地点とも平常の変動幅の範囲内であった。



注1:○は第1~4四半期の測定結果を示す。

注2:点線は平常の変動幅を示す。平常の変動幅は、蛍光ガラス線量計 (RPLD) による測定は H28 年度から開始したため、それ以前の熱ルミネセンス線量計による平常の変動幅を換算したもの。

### 図Ⅱ-3-2 積算線量の測定結果

### イ 大気浮遊じん全 α 放射能、大気中フッ素

木地山局に設置したダストモニタによる大気浮遊じん全 α 放射能の連続測定結果は、平常の変動幅の範囲内であった。

大気中フッ素の連続測定については、令和6年4月6日(10 時~12 時)に 0.38  $\times 10^{-4}$  mg/m³、同年7月19日(17 時~18 時)に 0.23  $\times$   $10^{-4}$  mg/m³、同年8月3日(22 時~24 時)に 0.06  $\times$   $10^{-4}$  mg/m³、同年12月6日(24 時)に 0.11  $\times$   $10^{-4}$  mg/m³、同年12月8日(6 時)に 0.12  $\times$   $10^{-4}$  mg/m³、令和7年1月20日(17~18 時)に 0.09  $\times$   $10^{-4}$  mg/m³、同年2月3日(21 時)に 0.11  $\times$   $10^{-4}$  mg/m³のフッ素が検出された

これらの変動要因について調査した結果、測定機器は正常であることを確認した。また、日本原子力研究開発機構人形峠環境技術センターが岡山県環境放射線等測定技術委員会の評価を受けて公表した「(参考資料)人形峠周辺環境の監視測定結果(令和6年度)ー岡山県内ー」(p17~18)では、原子力施設からの排気中にフッ素は検出されていない。これらのことから、大気中フッ素の自然変動によるものと考えられた。

表Ⅱ-3-1 固定型モニタリングポストの連続測定結果

項目	最高値	最低值	平常の変動幅	単位
全α放射能	245	1	1 ~ 297	${ m mBq/m^3}$
フッ素	0.38	0.00	$0.00 \sim 1.91$	$10^{-4}~\mathrm{mg/m^3}$

注1:全α放射能は250 L/分で3時間集じんし、3時間経過後、3時間測定。

注 2: 全 $\alpha$  放射能は、平成 28 年度に測定方法を変更しており(集塵後の経過時間を6時間から3時間に変更)、平成14~27 年度までの測定値を3時間経過後に測定したときの値に変換しているため暫定値とする。

注3:フッ素は、20 L/分で3時間吸引し測定

### ウ 環境試料中の放射性核種

### (ア) U-235 分析

環境試料中の U-235 の測定結果は、農産物 (米) 及び植物 (杉葉) からは U-235 は検出されなかった。

小河内から採取した土壌(水田土)から U-235 が検出されたが、平常の変動の範囲内であった。

		栗祖		加名	谷	小河	内	
区分	試料	測定 結果	平常の 変動幅	測定 結果	平常の 変動幅	測定 結果	平常の 変動幅	単位
土壌	水田土			(令和: 測定予		1. 6, 1. 7	1.0 ~ 1.8	Bq/kg
上坡	未耕土	(令和7 測定予						乾土
農産物	米			ND	ND	ND	ND	mBq/kg
植物	杉葉	ND	ND					生

表 II - 3 - 2 U-235 の分析結果の概要

注1:「平常の変動幅」は、前年度までの10年間(H26~R05年度)の最小値から 最大値のまでの範囲とする。

### (イ) U-238 分析

環境試料中のU-238の測定結果は、小河内から採取した陸水(水道水)、小河内から採取した土壌(水田土)、加谷・小河内から採取した農産物(米)及び栗祖から採取した植物(杉葉)からU-238が検出されたが、いずれも平常の変動幅の範囲内であった。

			4X II	5 5	0 230 0	/ /J 1/1 1/1 /	K 07 11% 3	4		
		木地	<u>.</u> Щ	栗神	且	加名	谷	小河	内	
区分	試料	測定	平常の	測定	平常の	測定	平常の	測定	平常の	単位
		結果	変動幅	結果	変動幅	結果	変動幅	結果	変動幅	
陸水	水道水	(令和7 測定予						3. 4, 3. 5	1.8 ~ 3.8	mBq/L
土壌	水田土					(令和 8 測定予		33, 36	27 ~ 43	Bq/kg
上坡	未耕土			(令和7年 測定予定						乾土
農産物	米					0. 58	ND ∼ 1.2	0.67	ND ∼ 0.70	mBq/kg
植物	杉葉			6. 5, 7. 4	5.7 ~ 13					生

表 II - 3 - 3 U-238 の分析結果の概要

注1:「平常の変動幅」は、前年度までの10年間(H26~R05年度)の最小値から 最大値のまでの範囲とする。

### (2) 測定項目別の結果

### ア 空間放射線

### (ア) 空間放射線量率連続測定(固定型モニタリングポスト)

### 表 II -3-4 固定型モニタリングポストの連続測定結果(1時間値)

(単位: n Gy/h)

測定地点	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間	平常の 変動幅
	最高値	74	74	80	74	73	65	74	95	69	75	72	74	95	142
木地山局	最低值	49	49	50	50	50	50	50	50	37	39	24	29	24	18
	平均値	53	52	53	52	54	53	53	53	48	46	39	44	50	

注1:空間放射線量率 1時間値

注2:「変動幅」は、前年度までの5年間(R01~R05年度)の最小値から最大値までの範囲とする。

### (イ) 積算線量測定

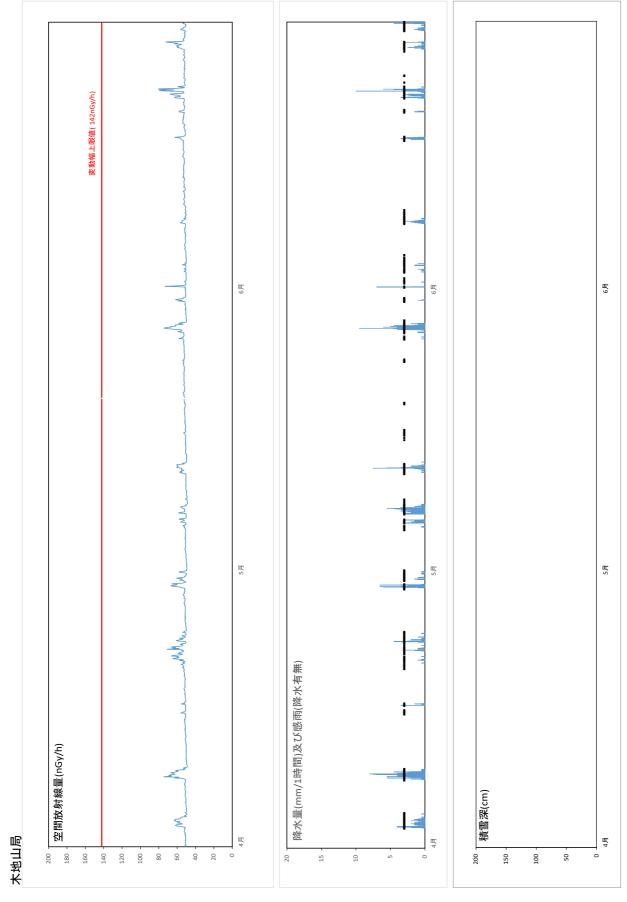
### 表Ⅱ-3-5 積算線量の測定結果

(単位:上段 μ Gy/90d、下段 μ Gy/h)

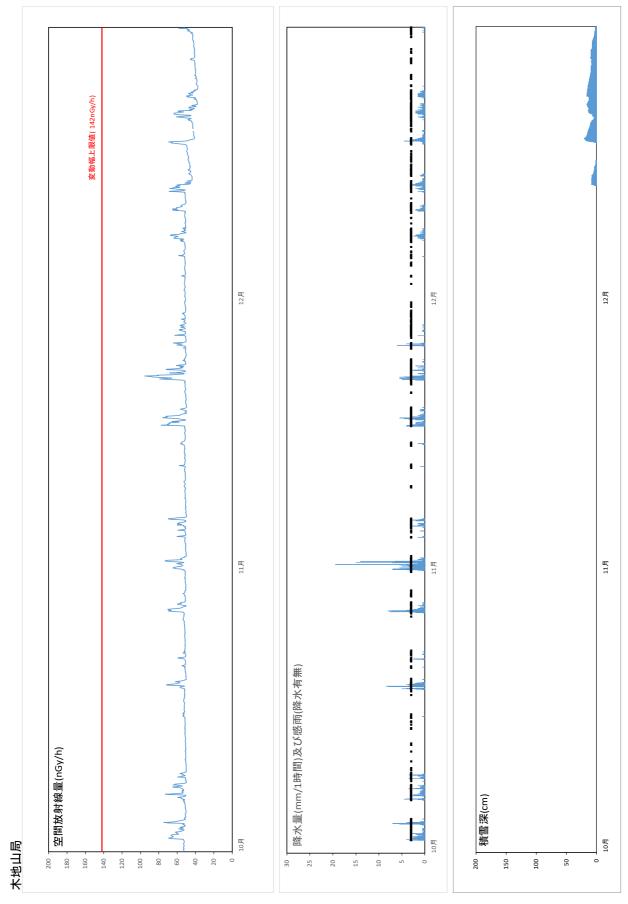
				(手圧・上き	$\chi = \mu Gy/30u$ , $+i\chi = \mu$	Gy/11/
測定地点	第1四半期 (3~5月)	第2四半期 (6~8月)	第3四半期 (9~11月)	第4四半期 (12~2月)	平常の変動幅 (暫定値)	年間線量 (mGy/365d)
栗祖	138	147	140	110	$103 \sim 151$	0.54
未性	(0.064)	(0.068)	(0.065)	(0.051)	$(0.048 \sim 0.070)$	0.54
加谷公民館	174	181	176	165	$156 \sim 186$	0.71
加骨公氏貼	(0.081)	(0.084)	(0.081)	(0.076)	$(0.072 \sim 0.086)$	0.71
<b>少</b> 明 八 足 約	208	221	213	190	$153 \sim 227$	0.04
穴鴨公民館	(0.096)	(0.102)	(0.099)	(0.088)	$(0.071 \sim 0.105)$	0.84
小河内	185	194	186	174	$145 \sim 202$	0.75
公民館付近	(0.086)	(0.090)	(0.086)	(0.081)	$(0.067 \sim 0.094)$	0.75
垣士八尺岭	201	212	203	168	141 ~ 226	0.70
福吉公民館	(0.093)	(0.098)	(0.094)	(0.078)	$(0.062 \sim 0.105)$	0.79
実光公民館	195	208	198	166	143 ~ 215	0.79
关汇公氏组	(0.090)	(0.096)	(0.092)	(0.077)	$(0.066 \sim 0.100)$	0.78
火山公民館	195	208	200	168	132 ~ 213	0.79
鉛山公民館	(0.090)	(0.096)	(0.093)	(0.078)	$(0.060 \sim 0.099)$	0.78

注1: 下段の数値は、当該期間における1時間当たりの線量率に換算したもの。

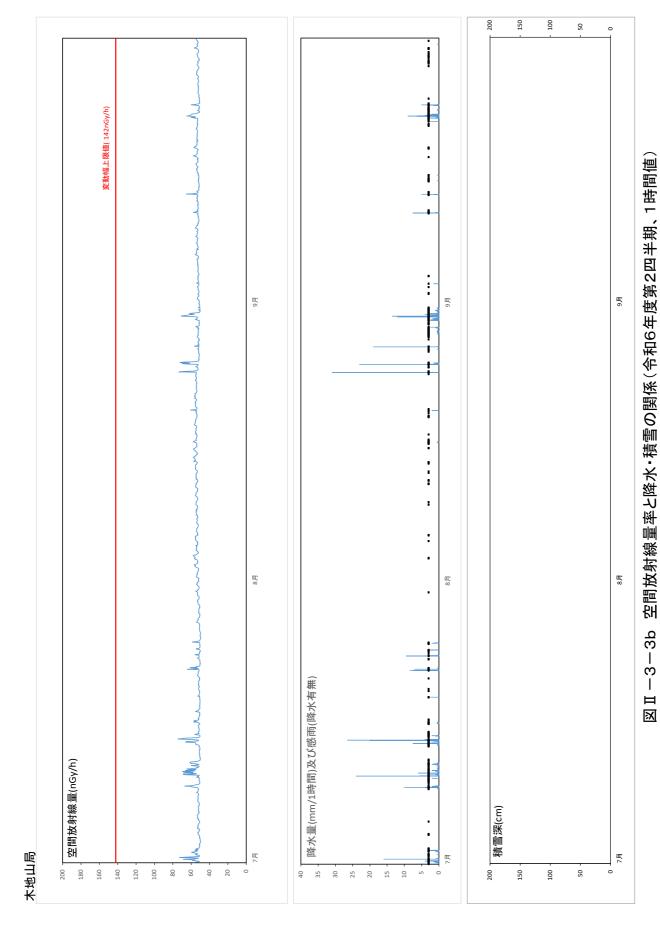
注2:「平常の変動幅」は、各地点における前年度までの10年間(H26~R05年度)の最小値から最大値までの範囲とする。

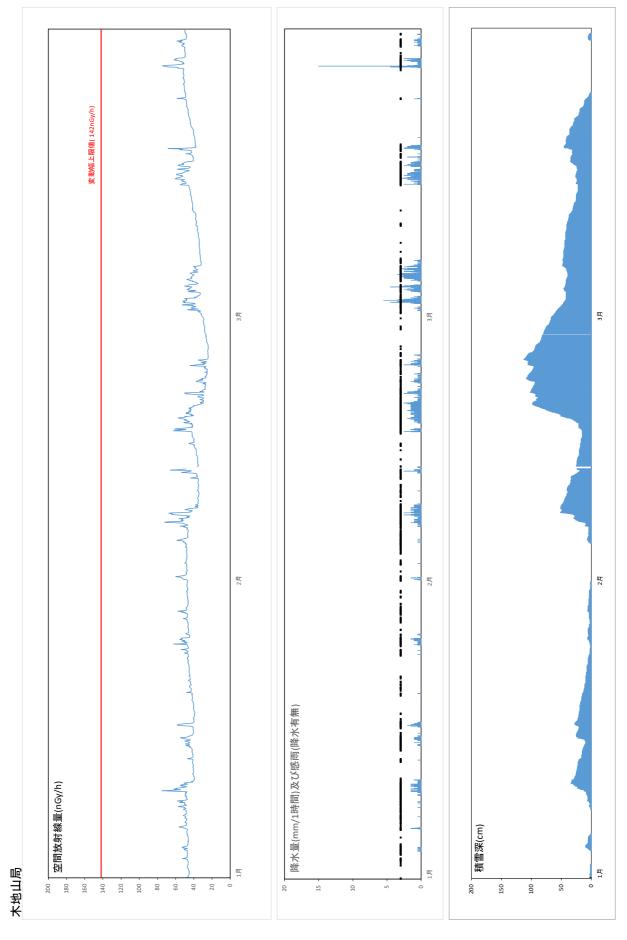


図I-3-3a 空間放射線量率と降水・積雪の関係(令和6年度第1四半期、1時間値)



図Ⅱ-3-3。 空間放射線量率と降水・積雪の関係(令和6年度第3四半期、1時間値)





図I-3-3d 空間放射線量率と降水・積雪の関係(令和6年度第4四半期、1時間値)

### イ 大気浮遊じん全α放射能、大気中フッ素の連続測定

### (ア) 連続測定(固定型モニタリングポスト)

### 表Ⅱ-3-6 大気浮遊じん及び大気中フッ素の測定結果

項目	地点	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間	平常の 変動幅
		最高値	211	151	171	190	245	233	176	146	79	108	76	130	245	297
全α放射能 (mBq/m³)	木地山局	最低值	2	2	3	5	10	3	3	4	4	5	1	2	1	1
(m2 q/ m /		平均値	36	29	42	52	82	60	37	33	28	28	17	24	38	
		最高値	0.38	0.00	0.00	0.23	0.06	0.00	0.00	0.00	0. 12	0.09	0.11	0.00	0.38	1. 91
フッ素 (10 <sup>-4</sup> mg/m³)	木地山局	最低值	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(10 mg/m/)		平均値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

注1:全α放射能 :250 L/分で3時間集じんし、3時間経過後、3時間測定

フッ素 :20 L/分で3時間吸引し測定

注2:「変動幅」は、前年度までの5年間(R01~R05年度)の最小値から最大値までの範囲とする。

注3:全α放射能は、平成28年度に機器更新し測定方法を変更しているため(集塵後の経過時間を6時間から3時間に変更)、平成28年度からの測定値を「測定開始時からの測定値」とした。

### ウ 環境試料中の放射性核種等

### (ア) 陸水

### 表Ⅱ-3-7 陸水の測定結果

⇒ hutot	lon ti			U-23	8 (mBq/L)
試料	部位	採取地点	採取年月日	測定結果	平常の変動幅
水道水	赤ロシ	三朝町小河内	R06. 07. 25	3. 4	1.8 ~ 3.8
小坦小	北口小	二朝町刀竹四四	R06. 11. 14	3. 5	1.8 ~ 3.8

注1:「平常の変動幅」は、前年度までの10年間(H26~R05年度)の最小値から最大値までの範囲とする。

### (イ) 土壌

### 表Ⅱ-3-8 土壌の測定結果

			採取	U-235 ()	Bq/kg乾土)	U-238 (	Bq/kg乾土)
試料	部位	採取地点	年月日	測定 結果	平常の 変動幅	測定 結果	平常の 変動幅
水田土	表層	三朝町小河内	R06. 07. 25		10~18	33	27 ~ 43
八川上	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	—→#7 m1 /1 /4 m1 / 1	R06. 11. 14	1.6	1.0 - 1.0	36	21 - 43

注1:「平常の変動幅」は、前年度までの10年間(H26~R05年度)の最小値から最大値までの範囲とする。

### (ウ)農産物

### 表Ⅱ-3-9 農産物の測定結果

試料	部位	採取地点	採取	U-235(mBq/kg生)		U-238(mBq/kg生)	
武作	타기보	1木以地点	年月日	測定結果	平常の変動幅	測定結果	平常の変動幅
米	精米	三朝町加谷	R06. 11. 14	ND	ND	0.58	ND $\sim$ 1.2
	作	三朝町小河内	R06. 11. 21	ND	ND	0.67	ND $\sim$ 0.70

注1:NDは検出下限値未満を示す。

注2:「平常の変動幅」は、前年度までの10年間(H26~R05年度)の最小値から最大値までの範囲とする。

注3:加谷はR01年度より採取地点を変更した。

### (エ)植物

### 表Ⅱ-3-10 植物の測定結果

試料 部位	如伏	採取地点	採取	U-235(mBq/kg生)		U-238(mBq/kg生)		
		年月日	測定結果	平常の変動幅	測定結果	平常の変動幅		
松卉	47 <del>45</del>		R06. 07. 25	ND	ND - 0.67	7. 4	$5.7 \sim 13$	
杉葉 一	三朝町栗祖	R06. 11. 14	ND	ND $\sim$ 0.67	6. 5	$5.7 \sim 13$		

注1:NDは検出下限値未満を示す。

注2:「平常の変動幅」は、前年度までの10年間(H26~R05年度)の最小値から最大値までの範囲とする。

注3:R01年度より採取地点を変更した。

### 4 令和7年度の平常の変動幅の設定について

令和6年度の測定結果を踏まえ、令和7年度の平常の変動幅を(1)~(3)のとおりに設定する。なお、測定計画の見直しにより、令和5年度で測定終了となった測定項目については、参考として(4)に示す。

- ○空間放射線量、大気浮遊じん全α放射能の連続測定 過去5年間の測定値の最小値から最大値までの範囲とする。
- ○積算線量測定、環境試料の核種分析 過去10年間の測定値の最小値から最大値までの範囲とする。

### (1)空間放射線

### ア 空間放射線量率連続測定(固定型モニタリンポスト)

(単位:nGy/h)

(単位 · // Gy/90d)

地点	平常の	変動幅	測定開始時(H14)からの測定値		
地点	最小値から最大値	最大値の発生月日	最小値から最大値	最大値の発生月日	
木地山局	18 ~ 142	R05. 01. 10 01:00	13 ~ 142	R05. 01. 10 01:00	

<sup>※「</sup>平常の変動幅」は、前年度までの5年間(R02~R06年度)の最小値から最大値までの範囲とする。

### イ 積算線量測定

1 1月开 1水 1	主 / 17 / C			(平 <u>μ</u> . μ θy/ 30d)
地点	平常の変動幅	百(暫定値)	測定開始時(H14	4)からの測定値
PEM	最小値から最大値	最大値の発生年月	最小値から最大値	最大値の発生年月
栗祖	103 ~ 151	R01.9∼11	77 ~ 179	H14.9~11
加谷	158 ~ 186	R01.9~11	113 ~ 218	H24.9∼11
穴鴨	$172 \sim 227$	R01.9~11	101 ~ 311	H19.6∼8
小河内	145 ~ 202	R01.9~11	110 ~ 221	H18. 12∼H19. 2
福吉	141 ~ 226	H24.9∼11	121 ~ 243	H19.3∼5
実光	143 ~ 215	H27.3∼5	113 ~ 221	H19.9∼11
鉛山	148 ~ 213	R01.9∼11	89 ~ 247	H20.9∼11

<sup>※ 「</sup>平常の変動幅」は、各地点における前年度までの10年間(H27~R06年度)の最小値から最大値までの範囲とする。(但し、H14~H27年度はTLD、H28年度以降はRPLDによる測定値のため暫定値とした)

### (2) 大気浮遊じん全 α 放射能、大気中フッ素の連続測定(固定型モニタリングポスト)

地点	項目	平常の変動幅		測定開始時 の測	(H14) から 定値	単位	
地点	次口 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	最小値から 最大値	最大値の 発生日時	最小値から 最大値	最大値の 発生日時	平14	
	全α放射能	1 ~ 297	R02. 05. 15 03:00	1 ~ 412	H30. 07. 15 11:00	${\rm mBq/m^3}$	
木地山局	フッ素	$0 \sim 0.74$	R05. 12. 05 20:00	0 ~ 2.02	H18. 10. 07 22:00	$10^{-4}~\mathrm{mg/m^3}$	

<sup>※ 「</sup>平常の変動幅」は、各地点における前年度までの5年間 (RO2~RO6年度) の最小値から最大値までの 範囲とする。

<sup>※</sup> 全α放射能は、平成28年度に機器更新し測定方法を変更しているため(集塵後の経過時間を6時間から3時間に変更)、平成28年度からの測定値を「測定開始時からの測定値」とした。

### (3) 環境試料中の放射性核種分析

項目			U	-235		測定期間	
区分	試料	地点	平常の変動幅	測定開始時から の最小〜最大値	単位		
	水田土	加谷	$0.91 \sim 1.7$ (R05.07)	0.77 ∼ 1.8 (H20.07)			
土壌	水田工	小河内	1.0 ∼ 1.8 (H29.11)	0.87 ∼ 1.8 (H29.11)	Bq/kg 乾土	H13∼R06	
	未耕土	栗祖	$0.41 \sim 0.97$ (R04.11)	0.28 ∼ 5.9 (H22.11)			
農産物	米	加谷	ND (—)	ND (—)	mBq/kg	H13∼R06	
<b>辰生初</b>	*	小河内	ND (—)	ND (—)	生	1113° - K00	
植物	杉葉	栗祖	$ND \sim 0.67$ (R01.11)	ND $\sim 1.0$ (H17.07)	mBq/kg 生	H13∼R06	

<sup>※ 「</sup>平常の変動幅」は、各地点における前年度までの 10 年間 (H27~R06 年度) の最小値から最大値まで の範囲とする。

<sup>※</sup> 樹葉は、R01年度より採取地点を変更。

項目		_	U-	-238			
区分	試料	地点	平常の変動幅	測定開始時から の最小〜最大値	単位	測定期間	
		栗祖	ND $\sim$ 0.09	ND $\sim$ 0.54			
陸水	水道水	(木地山)	(R04. 07)	(H18.01)	mBq/L	H13∼R06	
三八、	//\ <u>E</u> //\	小河内	$1.8 \sim 3.8$	$1.5 \sim 4.3$	шьч/ ь	1125 1100	
		ניונייף ני	(H29.08)	(H13. 12)			
		加谷	$22 \sim 34$	$22 \sim 44$			
	水田土	/3H2H	(R05. 07)	(H20.07)			
土壌	八四上	小河内	$27 \sim 43$	<u> </u>		H13∼R06	
上水		73 71-31 3	(H29. 11)	(H29.11)	乾土	1113 - 1100	
	未耕土	栗祖	$12 \sim 22$	$8.7 \sim 150$			
	/15/1/1	-	(H29.6)	(H22.11)			
			ND $\sim$ 0.58	ND $\sim$ 1.3			
		加谷	(H27. 11,	(H22. 11)	mBq/kg		
農産物	米		R06. 11)		生	H13∼R06	
		小河内	$ND \sim 0.70$	$ND \sim 1.6$			
		44 (44) 4	(R05. 11)	(H18. 11)			
植物	杉葉	栗祖	$5.7 \sim 13$	$4.0 \sim 35$	mBq/kg	H13∼R06	
	12×		(R01.11)	(H17.07)	生	110 100	

<sup>※ 「</sup>平常の変動幅」は、各地点における前年度までの 10 年間 (H27~R06 年度) の最小値から最大値まで の範囲とする。

<sup>※</sup> 数値の下の()は最大値の採取年月を示す。

<sup>※</sup> 数値の下の()は最大値の採取年月を示す。

<sup>※</sup> 樹葉は、R01年度より採取地点を変更。

<sup>※</sup> 陸水は RO3 年度から測定方法をα線スペクトロメトリーから ICP 質量分析法に変更。

### (4) 令和5年度までに測定終了した測定項目【参考】

### ア 空間放射線量率巡回測定(モニタリング車)

地点	測定開始からの 最小から最大値	単位	最大値の 測定年月日	測定 期間
栗祖	23 ~ 130		H16. 11. 19	
福吉	30 ~ 82	nGy/h	R01. 05. 31	H14∼
実光	$27 \sim 61$	nGy/n	R01. 05. 31	R04
鉛山	$22 \sim 64$		H14. 11. 22	

### イ 大気浮遊じん全 $\alpha$ 及び全 $\beta$ 放射能巡回測定(モニタリング車)

測定	全α放射	·能	全β放射	·能		測定	
地点	測定開始時からの 最小〜最大値	最大値の 測定年月日	測定開始時からの 最小〜最大値	最大値の 測定年月日	単位	期間	
栗祖	110 ~ 3, 180	H23. 08. 29	$570 \sim 8,220$	H29. 06. 01			
福吉	$150 \sim 4,950$	H24. 02. 07	360 ~ 14,800	R02. 09. 01	n / 3	H14∼	
実光	230 ~ 18,400	H16. 11. 19	$560 \sim 25,200$	H16. 11. 19	mBq/m³	R04	
鉛山	$150 \sim 4,190$	H16. 11. 19	$480 \sim 9,970$	R02. 09. 01			

<sup>※ 「</sup>平常の変動幅」は、各地点における前年度までの10年間(H25~R04年度)の 最小値から最大値までの範囲とする。

### ウ 環境試料中の放射性核種分析(U-238、Ra-226)

項目			U-23	8	Ra-22	6		測定
区分	試料	地点	測定開始時から の最小〜最大値	最大値の 測定年月	測定開始時から の最小~最大値	最大値の 測定年月	単位	期間
		栗祖	ND $\sim$ 3.8	H25.11	ND∼2.6	H25. 11		H13∼
陸水	河川水	加谷	ND $\sim$ 0.70	Н25.11	ND	_		
	1,37,173	穴鴨	ND $\sim$ 0.53	Н23. 07	ND	_		
		小河内	ND $\sim$ 1.4	Н19. 01	ND	_	mBq/L	
产工八	飲料水	栗祖	測定継続		ND	_	IIIDQ/ L	R04
		加谷	ND $\sim$ 3.9	Н13. 12	ND	_		
	以行小	穴鴨	ND $\sim$ 0.91	R02. 01	ND	_		
		小河内	測定継	:続	ND	_		
		栗祖	7.3 ~ 79	H13. 12	20 ~ 81	H26. 11		
土壌	河虎上	加谷	6.4 ~ 23	H13.12	$12 \sim 38$	H13. 12	Bq/kg 乾土	H13∼
上坡	河底土	穴鴨	8.3 ~ 27	Н22.11	14 ~ 42	Н21.06		R04
		小河内	8.5 ~ 36	Н21.06	21 ~ 56	H17. 11		

項目			U-23	8	Ra-22	6		測定
区分	試料	地点	測定開始時から の最小〜最大値		測定開始時から の最小~最大値	最大値の 測定年月	単位	期間
	水田土	加谷	測定継	<b></b> 送続	$22 \sim 47$	H17. 11		H13~ R04
		穴鴨	17 ~ 56	H19. 11	$32 \sim 56$	Н19. 11		
		小河内	測定継	続	50 ~ 77	H16.06, H17.07	- Bq/kg - 乾土	
土壌	畑土	穴鴨	21 ~ 52	H15.11	30 ~ 58	H13. 12		
		小河内	$25 \sim 50$	H16.11	$51 \sim 80$	Н19. 11		
	未耕土	栗祖	測定継	統	16 ~ 220	H22.11		
		加谷	19 ~ 32	Н19. 06	$24 \sim 40$	H28.07		
	米	加谷	測定継続		ND	_		H13~ R04
		小河内	測定継続		ND~79	H29. 11		
	野菜	加谷	ND $\sim$ 1.0	H24. 07	ND	_		H15∼
農産物	(任類)	小河内	ND $\sim$ 0.91	H18. 07	ND	_	mBq/kg 生	R04
	野菜 (ダイコン	加谷	ND ~ 0.61	R02. 11	ND $\sim$ 27	Н30. 11	<b>±</b> .	H13∼
	(根))	小河内	ND $\sim$ 0.91	Н17. 11	ND $\sim$ 90	H17. 11		R04
	野菜 (タマネギ)	小河内	ND	_	ND $\sim$ 75	Н30.06		H15∼ R04
植物	杉葉	栗祖	測定組	続	310 ~ 1,900	H18. 07	mBq/kg 生	H13∼ R04

<sup>※</sup> 樹葉は、R01年度より採取地点を変更。

### エ 環境試料中の放射性核種分析 (全β放射能、フッ素)

	K-DOBENTY T	11/11/17	<b>- 核種分析(全 β</b>		<b>ノツ系</b> ) フッ素			测点
項目 区分	試料	地点	測定開始時から の最小~最大値	最大値の 測定年月	測定開始時から の最小〜最大値	最大値の 測定年月	単位	測定 期間
			7 TO 1 TO 1	747C 174	$0.023 \sim 0.032$	R04. 11		
		栗祖	_	_	0.03 ~ 0.05	5 回検 出		
		+n/\			$0.032 \sim 0.038$	R04. 11		
	ک <del>دا</del> ا ا ا سام	加谷	_	_	0.03 ~ 0.05	9 回検 出		<u> </u> 
	河川水	<del>小</del> 帕			$0.036 \sim 0.042$	R03. 07		
		穴鴨	_	_	$0.03 \sim 0.05$	16 回検 出		
		小河内			$0.033 \sim 0.043$	R03. 07		
はまれ		기사비ト기	_	_	0.03 ~ 0.06	H20.01, H23.01	/I	H13∼
陸水		亜切			$0.026 \sim 0.034$	R03. 07	mg/L	R04
	飲料水	栗祖	_	_	$0.02 \sim 0.06$	H16. 11		
		加小			$0.048 \sim 0.051$	R04. 11	ı	
		加谷	_	_	$0.04 \sim 0.06$	40 回検 出		
		穴鴨			$0.045 \sim 0.052$	R04. 05		
		八节	_	_	$0.04 \sim 0.07$	H16.06		
		小河内	为 —		$0.059 \sim 0.062$	R03. 08		
					$0.05 \sim 0.09$	H20.01		
		栗祖	710 ~ 1,300	H24.07, H25.06	120 ~ 210	H16. 07		
	河底土	加谷	740 ~ 1,100	Н22. 07	110 ~ 240	H26.11		
	MARIL	穴鴨	$760 \sim 1,200$	Н28. 11	150 ~ 300	H21.06		
		小河内	830 ~ 1,600	Н16. 11	120 ~ 320	H15. 11	<b>A</b> a	
		加谷	810 ~ 1,000	6回検出	210 ~ 340	H22. 11, R01. 11	全β: Bq/kg	
土壌	水田土	穴鴨	850 ~ 1,200	7回検出	160 ~ 360	H19.11, R01.11	乾土	H13∼
上牧		小河内	970 ~ 1,400	H16. 06	240 ~ 450	H16. 11	フッ 素:	R04
		穴鴨	780 ~ 1,000	H15. 02, H23. 07	270 ~ 760	R03. 07	mg/kg 乾土	
	畑土	小河内	910 ~ 1,300	H16.11, H18.11, R02.11	230 ~ 520	R02. 11		
	未耕土・	栗祖	660 ~ 1,900	H22. 11	140 ~ 380	H22.11		
	71 <b>\</b> 471 <u>1</u> .	加谷	760 ~ 980	R02. 07	190 ~ 360	Н28. 07		

項目区分	試料	地点	全β放射能		フッ素		27.11.	測定
			測定開始時から の最小~最大値	最大値の 測定年月	測定開始時から の最小~最大値	最大値の 測定年月	単位	期間
農産物	米	加谷	_	_	ND $\sim$ 0.6	H13. 12	mg/kg 生	H13∼ R04
		小河内	_	_	ND $\sim$ 0.5	H13. 12		
	野菜(代類)	加谷	_	_	ND $\sim$ 0.2	H24. 07		H15~ R04
		小河内	_	1	ND $\sim$ 0.2	H28. 07		
	野菜 (ダイコン (根))	加谷	_	_	ND $\sim$ 0.06	H17. 11		H13∼ R04
		小河内	_	_	ND $\sim$ 0.1	H17. 11		
	野菜 (タマネギ)	小河内	_	_	ND $\sim$ 0.07	R01. 07		H15∼ R04
植物	杉葉	栗祖	_	_	$0.27 \sim 1.3$	H20.11, R01.07	mg/kg 生	H13∼ R04

<sup>※</sup> フッ素の陸水は、R3 年度からイオンメーターからイオンクロマトグラフに測定方法を変更したことから、 上段にイオンクロマトグラフ(R3~R4)、下段にイオンメーター(H13~R2)の測定結果を示す。

<sup>※</sup> 植物は、R01年度より採取地点を変更。